UR242

USB AUDIO INTERFACE

Operation Manual

Benutzerhandbuch

Fonctions Détaillées

Manual de Operaciones

Manual de Operação

Manuale Operativo

使用说明书

オペレーションマニュアル

EN
DE
FR
ES
PT
IT
ZH
JA

目次

開発者からのメッセージ

このたびはUSBオーディオインターフェースUR242をお買い上げいただきありがとうございます。

UR242は、先行して開発したUR44と同等の音質と機能を持ちながら、マイクプリアンプを2個とすることでUR22に匹敵するコンパクトさをも実現したモデルです。

これまでのURシリーズと同様に、音質を支えるマイクプリアンプ「D-PRE」は、部品選定や回路設計から徹底的にこだわり、伸びやかな高域、密度の濃い中域、パンチのある太い低域をバランスよく実現したキャラクターを持っており、ヤマハ音楽制作用ミキサー n12/n8から始まって、スタインバーグのオーディオインターフェースMR816シリーズ、そしてURシリーズと受け継がれてきました。今回はコンボ入力にPADを搭載し、高感度マイクから大出力のライン機器まで、幅広い入力ソースに対応できるようにしました。それぞれのソースが持つ音楽的なニュアンスをしっかりと受け止めて、ノイズの少ない録音ができるようにレベル調整にも力を入れています。

同様に、モニタースピーカーへ出力される音にも繊細な心遣いを忘れずに、「音の奥行きが見えること」をこのモデルでも大切にしました。左右の広がり、遠くの音、近くの音、大きい音、小さい音、そういった細かいニュアンスをできる限り感じられるような音作りを、一切の妥協をすることなく積み重ねています。

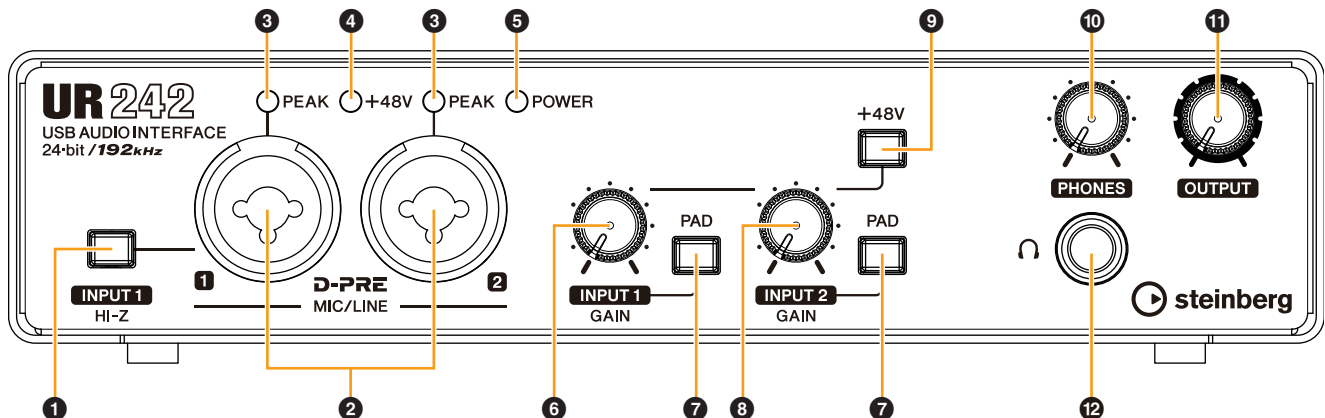
また、本体内蔵のDSPには録音時に音の遅れのないモニター環境を実現する「True Intergrated Monitoring」や、リバーブエフェクト「REV-X」、コンプレッサーやイコライザーにプロのノウハウを凝縮した「Channel Strip」、往年のビンテージサウンドから現代のハードなサウンドまでをカバーしたギターアンプシミュレーター「Guitar Amp Classics」を搭載し、上位モデルと同じく質感の高い音づくりや快適な録音環境を実現します。

拡張性という点では、Apple社のiPadでも活用していただくために、iOSに対応しています。自動判別によって本体の設定を特に意識することなく接続すれば使える便利さは、制作環境を選びません。たとえば、外出先などではSteinberg Cubasisなどのようなios対応音楽制作アプリケーションと組み合わせて、高音質なレコーディングをシンプルなセッティングで実現できます。さらに、動画配信などに便利なループバック機能を搭載し、昨今のインターネット環境でも活用できるように仕上げています。

高音質なレコーディングが、今や誰でも手軽に楽しめるものになりました。このモデルを通じて、はじめて音楽制作に携わる方からプロフェッショナルなシーンで活躍されている方まで、皆様の素敵な音楽生活に少しでも貢献ができたら、とても嬉しく思います。

スタインバーグハードウェア
開発チーム一同

各部の名前と機能を確認する

フロントパネル

❶ **[INPUT 1 HI-Z]スイッチ**

[MIC/LINE 1]端子の入力インピーダンスを切り替えます（オン▂/オフ■)。エレキギターやエレキベースなど、出力インピーダンスの高い楽器を[MIC/LINE 1]端子に接続するときは、オンにします。スイッチをオンにするときは、楽器と[MIC/LINE 1]端子をフォーンタイプのアンバランスのプラグで接続してください。バランスのプラグで接続すると、正常に動作しません。

⚠ **注意**

- **[INPUT 1 HI-Z]スイッチをオンにしたまま機器を抜き差ししないでください。外部機器および本体の故障の原因になります。**
- **スピーカー保護のため、[INPUT 1 HI-Z]スイッチをオン/オフする前にモニタースピーカーの電源をオフにしてください。また、[OUTPUT]ノブなどの出力コントロールは、すべて最小にしてください。大音量が出て、聴力障害または外部機器の損傷になることがあります。**

❷ **[MIC/LINE 1/2]端子**

マイク、電子楽器などを接続します。この端子は、XLR タイプとフォーンタイプ(バランス/アンバランス)のプラグを接続します。

> **HINT**
>
> **HI-ZとLINEの使い分け例**
>
> HI-Z:
> パッシブ(電池を使用しない)タイプのピックアップを搭載したギターやベース
>
> LINE:
> - エフェクターやプリアンプ、ダイレクトボックス
> - アクティブ(電池を使用する)タイプのピックアップを搭載したギターやベース
> - シンセサイザーなどの電子楽器

❸ **[PEAK]インジケーター**

入力信号がクリッピングレベルより3 dB低いレベルになると点灯します。

> **HINT**
>
> **最適な録音レベルにするために**
>
> 一番大きな音のときに、[PEAK]インジケーターが一瞬点灯するレベルになるように調整します。

❹ **[+48V]インジケーター**

[+48V]スイッチ(ファンタム電源)がオンのときに点灯します。

❺ **[POWER]インジケーター**

電源がオンのときに点灯します。コンピューターやiPadと接続ができていないときは点滅します。

❻ **[INPUT 1 GAIN]ノブ**

[MIC/LINE 1]端子の入力信号レベルを調節します。

❼ **[PAD]スイッチ**

オン(▂)にすると、本体に入力した音が減衰されます。音が歪む場合は、オン(▂)にしてください。

❽ **[INPUT 2 GAIN]ノブ**

[MIC/LINE 2]端子の入力信号レベルを調節します。

❾ [+48V]スイッチ

ファンタム電源(+48V)をオン(▂)/オフ(▇)します。このスイッチをオンにすると、[MIC/LINE 1/2]端子にファンタム電源を供給します。コンデンサーマイクを使用するときは、このスイッチをオンにしてください。

ファンタム電源使用時の注意

> **注記**
>
> **ファンタム電源が不要な場合、スイッチをオフにしてください。**
>
> **ファンタム電源をオンにする場合、本体/外部機器の故障やノイズを防ぐために、以下の内容にご注意ください。**
>
> - **[MIC/LINE 1/2]端子にファンタム電源非対応の機器を接続するときは、ファンタム電源のスイッチをオフにする。**
> - **ファンタム電源のオン/オフは、出力コントロールを最小にした状態で行なう。**
> - **ファンタム電源のスイッチをオンにしたまま、ケーブルの抜き差しをしない。**

❿ [PHONES]ノブ

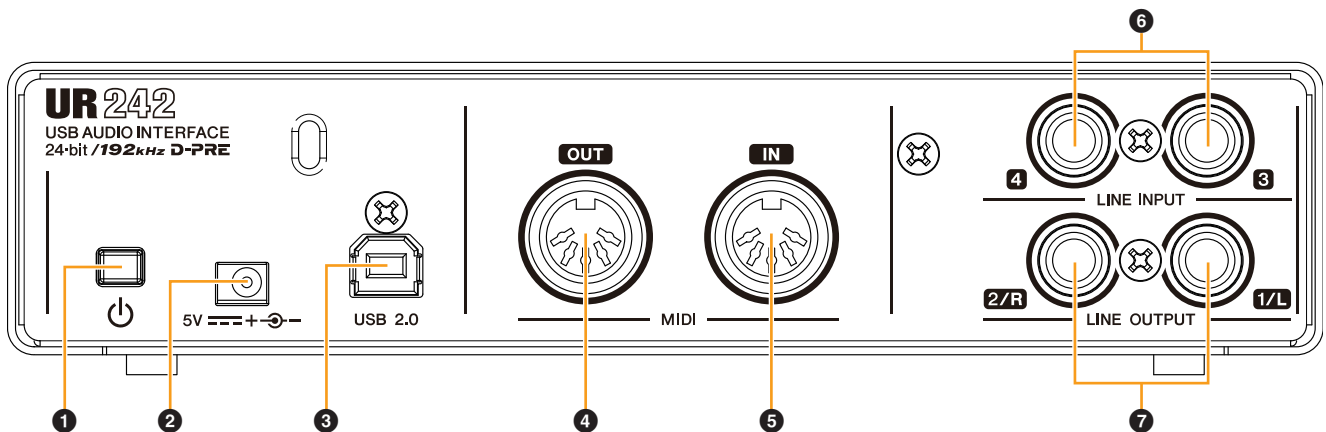
[PHONES]端子の出力信号レベルを調節します。

⓫ [OUTPUT]ノブ

[LINE OUTPUT]端子の出力信号レベルを調節します。

⓬ [PHONES 🎧]端子

ヘッドフォンを接続します。

リアパネル

❶ [⏻](スタンバイ/オン)スイッチ

本体の電源をオン(▁)/スタンバイ(■)します。

❷ DC IN [5V]

電源アダプターを接続します。

❸ [USB 2.0]端子

コンピューターやiPadを接続します。接続されている機器がコンピューターかiPadかを自動判別します。

USB端子使用時の注意

コンピューターと接続するときは、以下のことを行なってください。コンピューターや本体が停止(ハングアップ)して、データが壊れたり、失われたりするおそれがあります。コンピューターや本体が停止したときは、アプリケーションやコンピューターを再起動してください。

注記

- **USBケーブルは、ABタイプのものをご使用ください。USB3.0ケーブルは、使用できません。**
- **USBケーブルで本機とコンピューターを接続する前に、コンピューターの省電力(サスペンド/スリープ/スタンバイ/休止)モードを解除してください。**
- **USBケーブルの抜き差しをする前に、コンピューターのすべてのアプリケーションを終了させてください。**
- **USBケーブルを[USB2.0]端子から抜き差しする前に、[OUTPUT]ノブなどの出力コントロールを最小にしてください。**
- **USBケーブルの抜き差しは、6秒以上間隔を空けて行なってください。**

❹ [MIDI OUT]端子

MIDI機器のMIDI INと接続します。コンピューターから送信されたMIDI信号を出力します。

❺ [MIDI IN]端子

MIDI機器のMIDI OUTと接続します。受信したMIDI信号をコンピューターに送信します。

NOTE

iPad用アプリケーションでMIDI端子を使用する場合、MIDIポートとして[Steinberg UR242-1]を選択してください。[Steinberg UR242-2]は使用できません。

❻ [LINE INPUT 3/4]端子

電子楽器やミキサーなどを接続します。この端子は、フォーンタイプ(バランス/アンバランス)のプラグで接続します。[LINE INPUT]端子の入力レベルは、+4 dBuと-10 dBVの切り替えができます。業務用機器を接続するときは+4 dBu、民生用機器を接続するときは-10 dBVに切り替えます。初期設定は-10 dBVです。入力レベルは、「dspMixFx UR242」の「セットアップ画面」(11ページ)または「Cubaseシリーズの専用画面」の「Settings画面」(16ページ)で切り替えます。

❼ [LINE OUTPUT 1/L 2/R]端子

モニタースピーカーやライン入力をもつ外部機器などを接続します。 この端子は、 フォーンタイプ(バランス/アンバランス)のプラグを接続します。

ソフトウェア

ここでは、コンピューターで使用する場合のソフトウェアについて説明します。

Yamaha Steinberg USB Driver

Yamaha Steinberg USB Driver は、本体とコンピューターの間でデータをやりとりするためのソフトウェアです。コントロールパネルで、オーディオドライバーの基本設定の切り替え(Windows)やオーディオドライバー情報の確認(Mac)ができます。

Windows

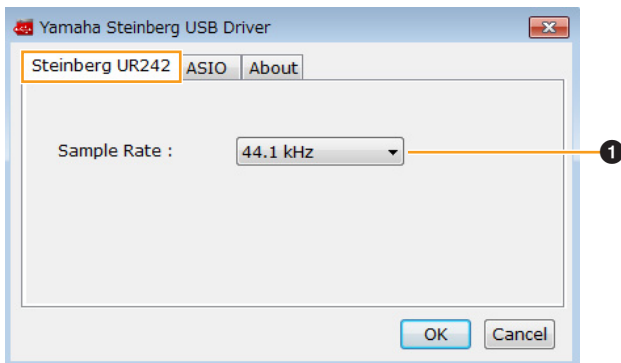
画面の開き方

- [コントロールパネル] → [ハードウェアとサウンド] または [サウンド、音声、およびオーディオデバイス] → [Yamaha Steinberg USB Driver]
- Cubaseシリーズのメニューから、[デバイス] → [デバイス設定...] → [Yamaha Steinberg USB ASIO] → [コントロールパネル]

画面の切り替え方

画面上部のタブをクリックすると、画面が切り替わります。

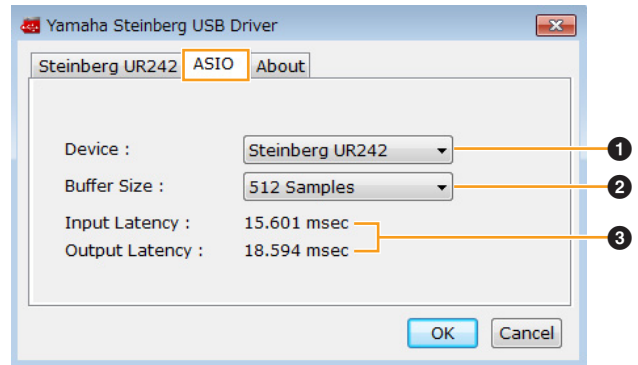
Steinberg UR242画面

本体のサンプリング周波数を切り替えます。

❶ Sample Rate

本体のサンプリング周波数を切り替えます。
選択肢：44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz

NOTE
設定できるサンプリング周波数は、DAWの対応するサンプリング周波数によって異なります。

ASIO画面

ASIOドライバーの設定を切り替えます。

❶ Device

ASIOドライバーで使う機器を切り替えます。(コンピューターにYamaha Steinberg USB Driver対応機器が2台以上接続しているときに有効です。)

❷ Buffer Size

ASIOドライバーのバッファーサイズを切り替えます。サンプリング周波数の値で、バッファーサイズの設定範囲が変わります。バッファーサイズの設定でレイテンシーの値が変わります。バッファーサイズの値を小さくするほど、レイテンシーの値が小さくなります。

サンプリング周波数	設定範囲
44.1 kHz / 48 kHz	64 Samples 〜 2048 Samples
88.2 kHz / 96 kHz	128 Samples 〜 4096 Samples
176.4 kHz / 192 kHz	256 Samples 〜 8192 Samples

❸ Input Latency/Output Latency

オーディオ入出力信号のレイテンシー (遅延時間)を、ミリ秒単位で表示します。

About画面

オーディオドライバーのバージョンと著作権情報を表示します。

Mac

画面の開き方

・[システム環境設定] → [Yamaha Steinberg USB]

・Cubaseシリーズのメニューから、[デバイス] → [デバイス設定...] → [Steinberg UR242] → [コントロールパネル] → [Open Config App]

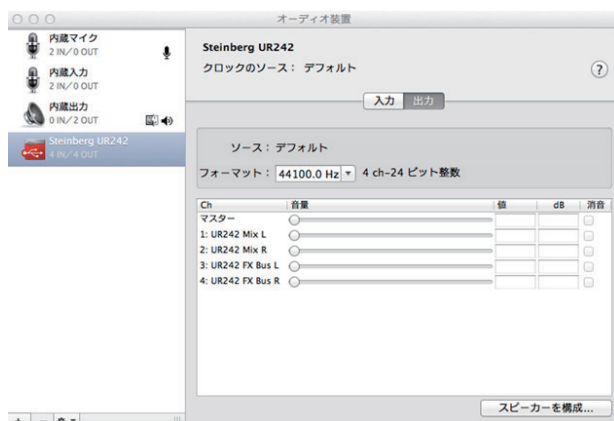
About画面

オーディオドライバーのバージョンと著作権情報を表示します。

サンプリング周波数の切り替え

サンプリング周波数は、[Audio MIDI設定]で切り替えます。

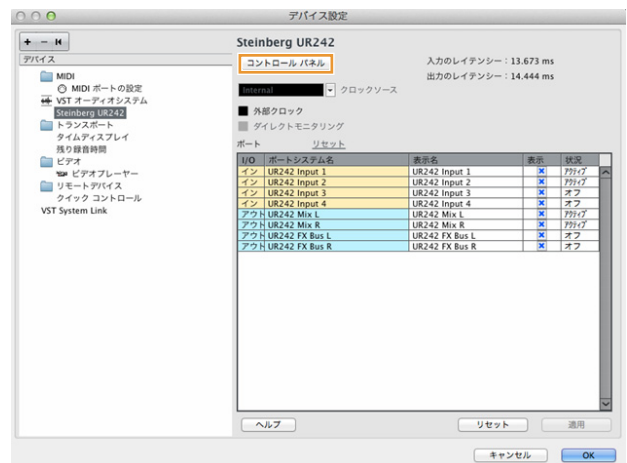
1. [アプリケーション] → [ユーティリティ] → [Audio MIDI設定] を開きます。

2. [フォーマット]でサンプリング周波数を切り替えます。

バッファーサイズの切り替え

バッファーサイズは、各アプリケーション(DAWソフトウェアなど)の設定画面で切り替えます。

1. Cubaseシリーズのメニューから、[デバイス] → [デバイス設定]を開きます。

NOTE
設定画面の開き方は、アプリケーションによって異なります。

2. 画面左メニューの[Steinberg UR242]内にある[コントロールパネル]をクリックします。

以下のバッファーサイズの切り替え画面が表示されます。

dspMixFx UR242

本体に搭載されているDSPミキサーやDSPエフェクトを操作するソフトウェアです。最大4チャンネルの入力信号をステレオにミックスして出力できます。入力信号には本体に搭載されているDSPエフェクトをかけることができ、ハードウェアミックスによるレイテンシーのない快適なモニター環境を構築できます。

NOTE

Cubaseシリーズ起動中は、dspMixFx UR242を操作できません。Cubaseシリーズ起動中は、「Cubaseシリーズの専用画面」(13ページ)で本体の設定を操作します。

画面の開き方

Windows

[すべてのプログラム]または[すべてのアプリ] → [Steinberg UR242] → [dspMixFx UR242]

Mac

[アプリケーション] → [dspMixFx UR242]

名前と機能

ツールエリア

dspMixFx UR242の共通設定を操作します。

❶ 閉じる

dspMixFx UR242を終了します。

❷ 最小化

dspMixFx UR242の画面を最小化します。

❸ メニュー

dspMixFx UR242の設定ファイルの保存やシーンの取り込みなど、4つのメニューを表示します。

メニュー	説明
Open	dspMixFx UR242の設定ファイルを読み込みます。
Save	dspMixFx UR242の設定ファイルをコンピューターに保存します。
Import Scene	保存したdspMixFx UR242の設定ファイルから、1つのシーンを取り込みます。ファイル選択ダイアログでファイルを選択すると表示される[IMPORT SCENE]の画面左側では、取り込むdspMixFx UR242の設定ファイルと取り込むシーンを選びます。画面右側では、シーンの取り込み先を選びます。[OK]をクリックすると、シーンが取り込まれます。
Initialize All Scenes	保存したすべてのシーンを削除します。

❹ シーン

シーンの名前を表示します。シーンの名前をクリックすると、シーンの名前を変更できます。右側のリストボタンをクリックすると、シーンの呼び出し画面が開きます。シーンをクリックすると、そのシーンを呼び出しできます。画面の外をクリックすると、シーンの呼び出しをキャンセルできます。

❺ STORE

シーンの保存画面を開きます。STORE NAMEには、保存したいシーンの名前を入れます。No. NAMEでは、シーンの保存先を選びます。[OK]をクリックすると、シーンが保存されます。

❻ 画面の切り替え

dspMixFx UR242の画面を切り替えます。開いている画面のアイコンが赤く点灯します。

アイコン	説明
	メイン画面(8ページ)
	セットアップ画面(11ページ)
	インフォメーション画面(12ページ)

❼ ヘルプ

オペレーションマニュアル(本書)を開きます。

メイン画面

全体の信号の流れを操作します。

チャンネルエリア

入力チャンネルを操作します。

❶ チャンネルリンク

隣り合う2つのチャンネルのチャンネルリンクをオン(点灯)/オフ(消灯)します。オンにすると、2つのチャンネルがリンクして1つのステレオチャンネルとして機能します。

❷ レベルメーター

信号のレベルを表示します。

❸ ハイパスフィルター

ハイパスフィルターをオン(点灯)/オフ(消灯)します([LINE INPUT 3/4]を除く)。ハイパスフィルターのカットオフ周波数は、「dspMixFx UR242」の「セットアップ画面」(11ページ)で切り替えます。

❹ フェーズ

信号の位相の反転(180°)をオン(点灯)/オフ(消灯)します。

❺ エフェクト挿入位置

エフェクトの挿入位置を切り替えます。

選択肢	説明
MON.FX	モニター信号(本体に送る信号)だけにエフェクトをかけます。
INS.FX	モニター信号(本体に送る信号)と録音信号(DAWソフトウェアに送る信号)にエフェクトをかけます。

❻ エフェクトオン/オフ

エフェクトをオン(点灯)/オフ(消灯)します。

❼ エフェクトエディット

選ばれているエフェクトの設定画面を開いたり(点灯)閉じたり(消灯)します。

❽ エフェクトタイプ

エフェクトタイプを選びます。
選択肢：Ch.Strip、Clean、Crunch、Lead、Drive

NOTE
同時に使えるChannel Strip数、Guitar Amp Classics数には制限があります。詳細は、「エフェクトの使用制限」(27ページ)をご参照ください。

❾ REV-Xセンド

REV-Xに送る信号の量(リバーブのかかり具合)を調節します。
範囲：-∞ dB ～ +6.00 dB

❿ パン

パンを調節します。
範囲：L16 ～ C ～ R16

⓫ ミュート

ミュートをオン(点灯)/オフ(消灯)します。

⓬ ソロ

ソロをオン(点灯)/オフ(消灯)します。

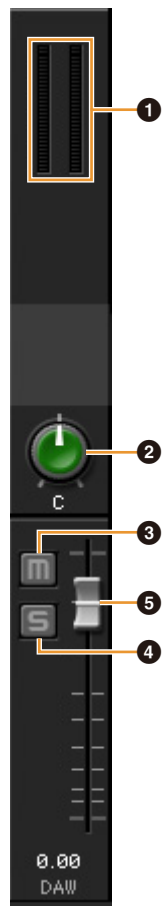
⓭ +48V

本体で切り替えたファンタム電源のオン(点灯)/オフ(消灯)を表示します。

⓮ フェーダー

信号のレベルを調節します。
範囲：-∞ dB ～ +6.00 dB

DAWエリア

DAWチャンネルを操作します。

❶ レベルメーター

信号のレベルを表示します。

❷ パン

パンを調節します。
範囲：L16 〜 C 〜 R16

❸ ミュート

ミュートをオン(点灯)/オフ(消灯)します。

❹ ソロ

ソロをオン(点灯)/オフ(消灯)します。

❺ フェーダー

信号のレベルを調節します。
範囲：-∞ dB 〜 +6.00 dB

マスターエリア

マスターチャンネルを操作します。

❶ レベルメーター

信号のレベルを表示します。

❷ REV-Xセンド オン

REV-Xセンドを表示します。常時オンとなります。

❸ REV-Xエディット

「REV-X」(18ページ)の設定画面を開いたり(点灯)閉じたり(消灯)します。

❹ REV-Xタイプ

REV-Xのタイプを切り替えます。
選択肢：Hall、Room、Plate

❺ REV-Xタイム

REV-Xの残響の長さを調節します。Room Sizeと連動します。REV-Xタイプによって調節範囲が異なります。

REV-Xタイプ	範囲
Hall	0.103 sec 〜 31.0 sec
Room	0.152 sec 〜 45.3 sec
Plate	0.176 sec 〜 52.0 sec

❻ REV-Xリターンレベル

REV-Xのリターンレベルを調節します。
範囲：-∞ dB 〜 +6.00 dB

❼ パン
パンを調節します。
範囲：L16 ～ C ～ R16

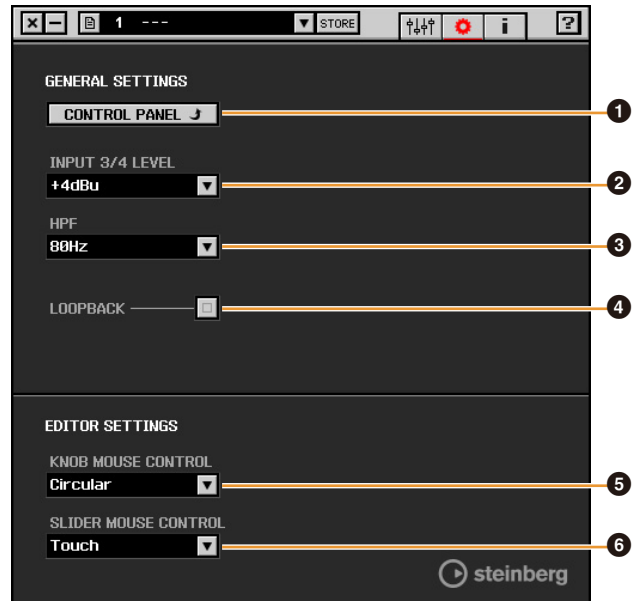
❽ ミュート
ミュートをオン(点灯)/オフ(消灯)します。

❾ フェーダー
信号のレベルを調節します。
範囲：-∞ dB ～ +6.00 dB

> **HINT**
> **フェーダー操作**
> ・フェーダーをダブルクリックすると、0dBに戻すことができます。
> ・[Ctrl]/[command] + [Shift]を押しながらフェーダーをドラッグすると、全チャンネルのフェーダーを同時に動かすことができます。

MIXエリア
操作対象のMIXを表示します。UR242ではMIX1のみとなります。

ヘッドフォンエリア
[PHONES 🎧]端子からモニター信号が出力されていることを表示します。常時オンとなります。

セットアップ画面
本体の共通設定を操作します。

❶ CONTROL PANEL
Windowsでは、「Yamaha Steinberg USBドライバーのコントロールパネル」(6ページ)を開きます。Macでは、Audio MIDI設定を開きます。

❷ INPUT 3/4 LEVEL
LINE INPUT 3/4の入力レベルを切り替えます。
選択肢：+4dBu、-10dBV

❸ HPF
ハイパスフィルターのカットオフ周波数を切り替えます([LINE INPUT 3/4]を除く)。
選択肢：120Hz、100Hz、80Hz、60Hz、40Hz

❹ LOOPBACK
ループバック機能をオン(点灯)/オフ(消灯)します。

> **HINT**
> **ループバックとは**
> インターネットの映像配信などに便利な機能です。本体の入力端子に入力されているオーディオ信号(ギター、マイクなど)と、コンピューター内で使用中のソフトウェアから再生されているオーディオ信号を本体内で2チャンネルにミックスし、コンピューターに戻します。

> **ループバック機能使用時の注意**
> DAWソフトウェア経由で本体からの入力信号をモニターしているときに、ループバック機能をオンにすると、大きなノイズを発生します。これは、本体とDAWソフトウェアの間でオーディオ信号の無限ループが形成されるからです。ループバック機能を使用するときはDAWソフトウェアのモニター機能をオフにしてください。

❺ KNOB MOUSE CONTROL
dspMixFx UR242のノブの操作方法を切り替えます。

選択肢	説明
Circular	円を描くようにドラッグすることで値を増減します。時計回しで値が増え、反時計回しで値が減ります。ノブの任意の場所をクリックすると、クリックした場所の値に変化します。
Linear	直線的にドラッグすることで値を増減します。上方向または右方向で値が増え、下方向または左方向で値が減ります。ノブの任意の場所をクリックしても、クリックした場所の値に変化しません。

❻ SLIDER MOUSE CONTROL

dspMixFx UR242のスライダー /フェーダーの操作方法を切り替えます。

選択肢	説明
Jump	スライダー /フェーダーの任意の場所をクリックすることで値を増減します。スライダー /フェーダーのクリックした場所にハンドルが移動します。
Touch	スライダー /フェーダーのハンドルをドラッグすることで値を増減します。スライダー /フェーダーのハンドルがない場所をクリックしても、スライダー /フェーダーのハンドルは移動しません。

インフォメーション画面

dspMixFx UR242や本体の情報を表示します。

❶ バージョン情報

ソフトウェアや本体のファームウェアのバージョンを表示します。

❷ Check for update

ソフトウェアや本体のファームウェアのバージョンが更新可能かどうか、インターネット経由で確認します。新しいバージョンが見つかったときは、画面の指示に従って更新してください。

> **dspMixFx for iPad**
> iPadからはdspMixFx for iPadを使って本体に搭載されているDSPミキサーやDSPエフェクトを操作できます。詳細は、Steinbergウェブサイトをご参照ください。
> http://japan.steinberg.net/

Cubaseシリーズの専用画面

本体の設定をCubaseシリーズから操作できる画面です。Cubaseシリーズの専用画面を使うと、dspMixFx UR242を使って設定するパラメーターをCubaseシリーズから設定できます。入力設定画面とHardware Setup画面の2つがあります。

入力設定画面

本体の入力チャンネルの機能を操作します。信号は、上から下へ流れます。この画面の設定は、Cubaseのプロジェクトファイルに保存されます。ただし、ファンタム電源のオン/オフの表示だけは保存されません。

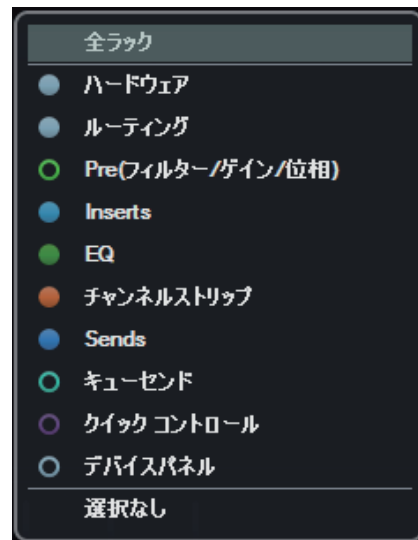
入力設定画面は、UR242のデバイスポートが設定されているStereoバスまたはMonoバスに表示されます。

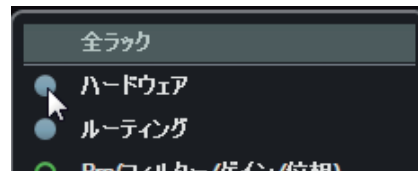
画面の開き方

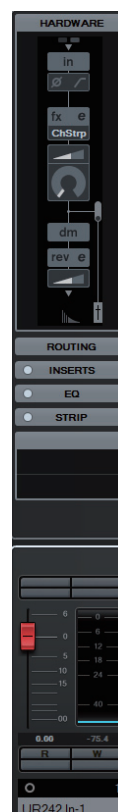
入力設定画面は、ミキサー画面の中に表示します。

1. **[デバイス] → [MixConsole]で、ミキサー画面を開きます。**

2. **[ラック]をクリックします。**

以下のように[全ラック]画面を表示します。

3. **[ハードウェア]横の[○]をクリックして、ミキサー画面の中に[HARDWARE]を表示します。**

非表示 ○ → 表示 ●

4. **[HARDWARE]をクリックします。**

以下のように、ミキサー画面の中に入力設定画面を表示します。

[HARDWARE]がチャンネルに表示されないときは

Cubaseの[デバイス]→[VSTコネクション]で表示されるVSTコネクション画面で設定を変更します。

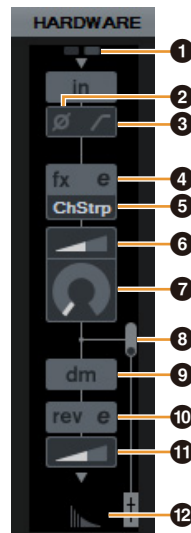
デバイスポートに同じ入力ポートが複数設定されている場合、上に表示されているバスのチャンネルだけに[HARDWARE]が表示されます。

この例の場合、[HARDWARE]はStereoバスのみ表示されます。Mono Inバスに[HARDWARE]を表示したいときは、Stereoバスの[UR242 Input1]のデバイスポートを[未接続]または[UR242 Input 1]以外の入力ポートを設定してください。

Stereoバスに[HARDWARE]を表示したいときは、デバイスポートが[UR242 Input 1]と[UR242 Input 2]の組み合わせか、[UR242 Input 3]と[UR242 Input 4]の組み合わせのいずれかにします。これ以外の組み合わせのときは表示されません。

入力設定画面の表示がせまいときは

CubaseのMixConsoleでは、チャンネルの表示幅をコンピューターの[H]キーと[G]キーで調節できます。表示幅が狭くて操作子が表示されていない場合は、[H]キーで表示幅を広げてください。

名前と機能

❶ +48V

本体で切り替えたファンタム電源のオン(点灯)/オフ(消灯)を表示します。

❷ フェーズ

信号の位相の反転(180°)をオン(点灯)/オフ(消灯)します。

❸ ハイパスフィルター

ハイパスフィルターをオン(点灯)/オフ(消灯)します([LINE INPUT 3/4]を除く)。ハイパスフィルターのカットオフ周波数は、「Cubaseシリーズの専用画面」の「Settings画面」(16ページ)で切り替えます。

❹ エフェクトエディット

選ばれているエフェクトの設定画面を開きます。

❺ エフェクトタイプ

エフェクトタイプを選びます。
選択肢：ChStrp、Clean、Crnch、Lead、Drive

NOTE
同時に使えるChannel Strip数、Guitar Amp Classics数には制限があります。詳細は、「エフェクトの使用制限」(27ページ)をご参照ください。

❻ ドライブ/アウトプットレベル

Channel Stripを選んでいるときは、コンプレッサーのかかり具合を調節します。値を大きくするほど、かかり具合が強くなります。
範囲：0.00 ～ 10.00

Guitar Amp Classicsを選んでいるときは、アウトプットレベルを調節します。
範囲：0.00 ～ 1.00

❼ モーフ

Channel StripのSweet Spot Dataを調節します。(「Channel Strip」(16ページ)の「モーフ」を参照)
Guitar Amp Classicsを選んでいるときは、表示されません。

❽ エフェクト挿入位置

エフェクトの挿入位置を切り替えます。

挿入位置	説明
上(OFF)	エフェクトをオフにします。
中(MON.FX)	モニター信号(本体に送る信号)だけに エフェクトをかけます。
下(INS.FX)	モニター信号(本体に送る信号)と録音信号 (DAWソフトウェアに送る信号)に エフェクトをかけます。

❾ ダイレクトモニタリング送出位置

Cubaseのデバイス設定でダイレクトモニタリングがオンのときに、モニター出力先へ送る信号の送出位置を表示します。

❿ REV-Xエディット

「REV-X」(18ページ)の設定画面を開きます。

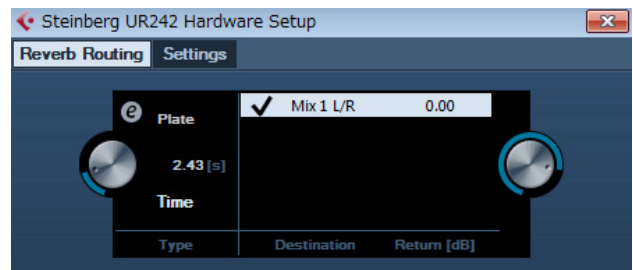
⓫ REV-Xセンド

REV-Xに送る信号の量(リバーブのかかり具合)を調節します。
範囲：-∞ dB 〜 +6.00 dB

⓬ Reverb Routingエディット

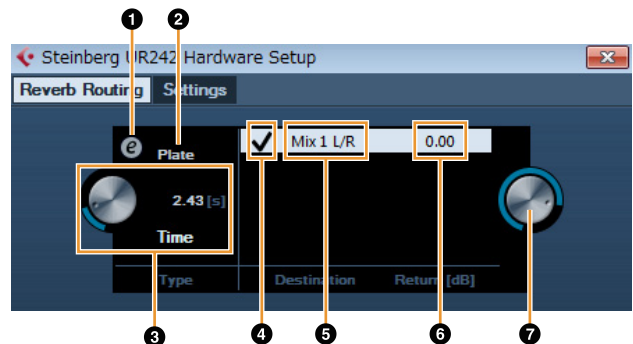
「Cubaseシリーズの専用画面」の「Reverb Routing画面」(15ページ)を開きます。

Hardware Setup画面

本体の共通設定を操作します。画面上部のタブをクリックすると、画面が切り替わります。Reverb Routing画面の設定だけ、Cubaseのプロジェクトファイルに保存されます。

画面の開き方

[デバイス] → [Audio Hardware Setup]でHardware Setup画面を表示します。

Reverb Routing画面

「REV-X」(18ページ)の設定を操作します。

❶ REV-Xエディット

「REV-X」(18ページ)の設定画面を開きます。

❷ REV-Xタイプ

REV-Xのタイプを切り替えます。
選択肢：Hall、Room、Plate

❸ REV-Xタイム

REV-Xの残響の長さを調節します。Room Sizeと連動します。REV-Xタイプによって調節範囲が異なります。

REV-Xタイプ	範囲
Hall	0.103 sec 〜 31.0 sec
Room	0.152 sec 〜 45.3 sec
Plate	0.176 sec 〜 52.0 sec

❹ REV-Xセンドソースセレクト

REV-Xに送る信号を表示します。UR242ではMix1 L/Rのみとなります。

❺ REV-Xセンドソース

REV-Xに送る信号を表示します。

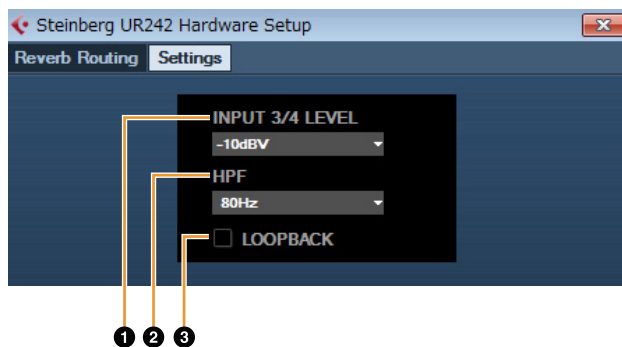
❻ REV-Xリターンレベル

REV-Xのリターンレベルを表示します。

❼ REV-Xリターンレベルノブ

選んだ(反転している)信号のリターンレベルを調節します。
範囲：-∞ dB 〜 +6.00 dB

Settings画面

本体の設定を操作します。

❶ INPUT 3/4 LEVEL

[LINE INPUT 3/4]の入力レベルを切り替えます。
選択肢：+4dBu、-10dBV

❷ HPF

ハイパスフィルターのカットオフ周波数を切り替えます([LINE INPUT 3/4]を除く)。
選択肢：120Hz、100Hz、80Hz、60Hz、40Hz

❸ LOOPBACK

ループバック機能をチェックボックスでオンにします。
「LOOPBACK」(11ページ)を参照。

Sweet Spot Morphing Channel Strip

Sweet Spot Morphing Channel Strip (Channel Strip)とは、コンプレッサーとイコライザーを組み合わせたプロセッサーです。プロフェッショナルエンジニアのノウハウが凝縮されたセッティングがあらかじめ用意されており、簡単な操作でプロ並みの効果を得ることができます。

本体には、4基のChannel Stripが搭載されています。Channel Stripは、モニター信号だけにかけるか、モニター信号と録音信号の両方にかけるかを選べます。

本体に搭載されているDSPエフェクトのChannel Stripと、VSTプラグイン版のChannel Stripは、同じ機能です。Cubaseシリーズで使うと、DSPエフェクトのChannel StripとVSTプラグイン版のChannel Stripの設定をプリセットで共有できます。なお、CubaseシリーズでDSPエフェクトのChannel Stripを使うときは、Cubaseシリーズの[ダイレクトモニタリング]をオンにする必要があります。また、CubaseシリーズでVSTプラグイン版のChannle Strip を使うときは、[Dynamics]のカテゴリーから選びます(初期設定の場合)。ただし、サンプリング周波数が176.4 kHzまたは192 kHzの場合、本体に搭載されているDSPエフェクトのChannel Stripは使用できません。

画面の開き方

Cubaseシリーズの専用画面から

「入力設定画面」の「エフェクトタイプ」(14ページ)でChannel Stripを選んだあと、「エフェクトエディット」をクリックします。

dspMixFx UR242から

「チャンネルエリア」の「エフェクトタイプ」(9ページ)でChannel Stripを選んだあと、「エフェクトエディット」をクリックします。

名前と機能

コンプレッサーとイコライザー共通

❶ モーフ

Sweet Spot Dataのパラメーターを調節します。このノブを回すと、ノブのまわりの5つの点それぞれに保存されたコンプレッサーとイコライザーの設定(Sweet Spot Data)を、同時に動かすことができます。2点の中間にノブを合わせた場合、コンプレッサーとイコライザーの設定は、2点の中間の設定になります。

❷ Sweet Spot Data

Sweet Spot Dataを選びます。

❸ TOTAL GAIN

Channel Strip全体のゲインを調節します。
範囲：-18.0 dB ～ +18.0 dB

❹ レベルメーター

Channel Stripの出力レベルを表示します。

コンプレッサー

❶ ATTACK

コンプレッサーのアタックタイムを調節します。
範囲：0.092 msec ～ 80.00 msec

❷ RELEASE

コンプレッサーのリリースタイムを調節します。
範囲：9.3 msec ～ 999.0 msec

❸ RATIO

コンプレッサーのレシオを調節します。
範囲：1.00 ～ ∞

❹ KNEE

コンプレッサーのニータイプを選びます。

ニータイプ	説明
SOFT	自然に音量が変化します。
MEDIUM	SOFTとHARDの中間です。
HARD	はっきりと音量が変化します。

❺ SIDE CHAIN Q

サイドチェーンフィルターのQを調節します。
範囲：0.50 ～ 16.00

❻ SIDE CHAIN F

サイドチェーンフィルターの中心周波数を調節します。
範囲：20.0 Hz ～ 20.0 kHz

❼ SIDE CHAIN G

サイドチェーンフィルターのゲインを調節します。
範囲：-18.0 dB ～ +18.0 dB

❽ COMPRESSORオン/オフ

コンプレッサーをオン(点灯)/オフ(消灯)します。

❾ コンプレッサーカーブ

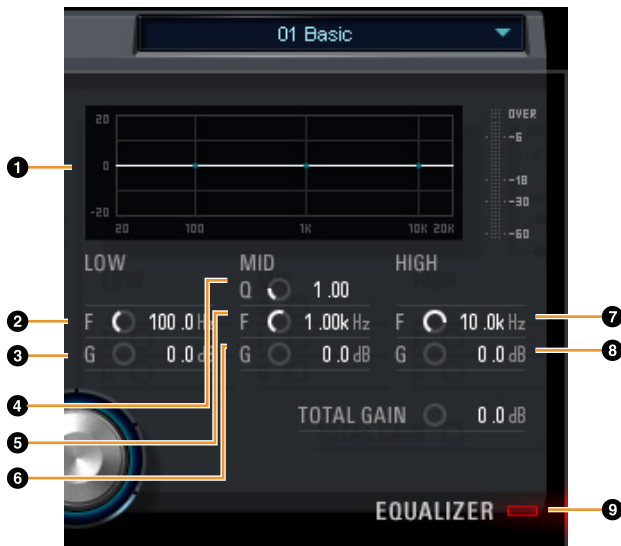
コンプレッサーの特性を表示するグラフです。縦軸は出力信号レベル、横軸は入力信号レベルです。

❿ ゲインリダクションメーター

コンプレッサーのゲインリダクション量を表示します。

⓫ DRIVE

コンプレッサーのかかり具合を調節します。値を大きくするほど、かかり具合が強くなります。
範囲：0.00 ～ 10.00

イコライザー

❶ イコライザーカーブ

3バンドイコライザーの特性を表示するグラフです。縦軸はゲインの増減量、横軸は周波数です。グラフの中のハンドルをマウスでドラッグすると、LOW、MID、HIGHを調節できます。

❷ LOW F

ローバンドの中心周波数を調節します。
範囲：20.0 Hz ～ 1.00 kHz

❸ LOW G

ローバンドのゲインを調節します。
範囲：-18.0 dB ～ +18.0 dB

❹ MID Q

ミドルバンドのQを調節します。
範囲：0.50 ～ 16.00

❺ MID F

ミドルバンドの中心周波数を調節します。
範囲：20.0 Hz ～ 20.0 kHz

❻ MID G

ミドルバンドのゲインを調節します。
範囲：-18.0 dB ～ +18.0 dB

❼ HIGH F

ハイバンドの中心周波数を調節します。
範囲：500.0 Hz ～ 20.0 kHz

❽ HIGH G

ハイバンドのゲインを調節します。
範囲：-18.0 dB ～ +18.0 dB

❾ EQUALIZERオン/オフ

イコライザーをオン(点灯)/オフ(消灯)します。

REV-X

REV-Xとは、ヤマハがプロオーディオ機器用に開発したデジタルリバーブエフェクトです。

本体には、1基のREV-Xが搭載されています。本体に入力する信号を、REV-Xに送ることができます。REV-Xは、モニター信号だけにかけることができます。REV-Xには、Hall、Room、Plateの3つのタイプがあります。

本体に搭載されているDSPエフェクトのREV-Xと、VSTプラグイン版のREV-Xは、同じ機能です。ただし、画面下部にある[OUTPUT]と[MIX]は、VSTプラグイン版だけにあります。Cubaseシリーズで使うと、DSPエフェクトのREV-XとVSTプラグイン版のREV-Xの設定をプリセットで共有できます。なお、CubaseシリーズでDSPエフェクトのREV-Xを使うときは、Cubaseシリーズの[ダイレクトモニタリング]をオンにする必要があります。また、CubaseシリーズでVSTプラグイン版のREV-Xを使うときは、[Reverb]のカテゴリーから選びます(初期設定の場合)。

DSPエフェクトのREV-Xには、DAWから直接信号を送るための「FX Bus」があります。たとえば、録音したオーディオトラックからFX Busにセンドで信号を送ることで、録音時にモニター信号に使ったREV-Xの音を、再生時でも確かめることができます。

画面の開き方

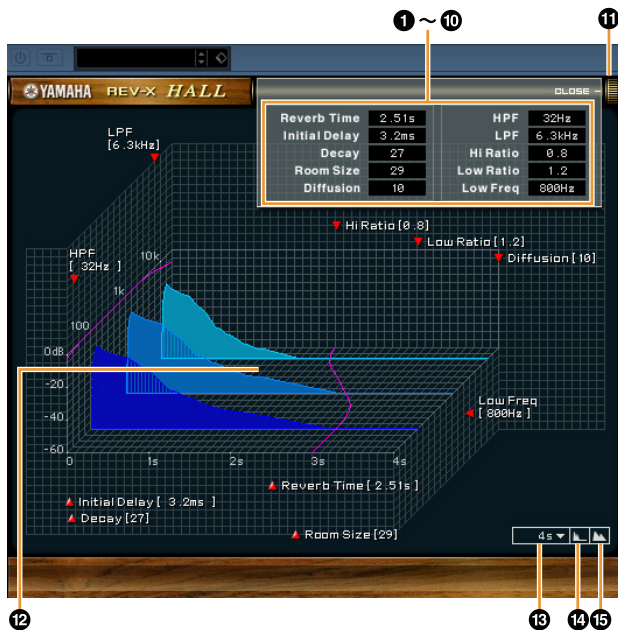
Cubaseシリーズの専用画面から

・「入力設定画面」の「REV-Xエディット」(15ページ)をクリックします。

・「Reverb Routing画面」の「REV-Xエディット」(15ページ)をクリックします。

dspMixFx UR242から

「マスターエリア」の「REV-Xエディット」(10ページ)をクリックします。

名前と機能

ここでは、Hallタイプを例に説明します。

❶ Reverb Time

残響の長さを調節します。Room Sizeと連動します。REV-Xタイプによって調節範囲が異なります。

REV-Xタイプ	範囲
Hall	0.103 sec ～ 31.0 sec
Room	0.152 sec ～ 45.3 sec
Plate	0.176 sec ～ 52.0 sec

❷ Initial Delay

残響がかかり始めるまでの時間を調節します。
範囲：0.1 msec ～ 200.0 msec

❸ Decay

残響が鳴り始めてから消えるまでの特性を調節します。
範囲：0 ～ 63

❹ Room Size

残響の空間の広さを調節します。Reverb Timeと連動します。
範囲：0 ～ 31

❺ Diffusion

残響の密度や広がりを調節します。
範囲：0 ～ 10

❻ HPF

残響の低音域が減衰する周波数を調節します。
範囲：20 Hz ～ 8.0 kHz

❼ LPF

残響の高音域が減衰する周波数を調節します。
範囲：1.0 kHz ～ 20.0 kHz

❽ Hi Ratio

残響の高音域の長さを、Reverb Timeとの比率で調節します。値が1.0のとき、Reverb Timeと同じ長さになります。値を小さくするほど、残響の高音域が短くなります。
範囲：0.1 ～ 1.0

❾ Low Ratio

残響の低音域の長さを、Reverb Timeとの比率で調節します。値が1.0のとき、Reverb Timeと同じ長さになります。値を小さくするほど、残響の低音域が短くなります。
範囲：0.1 ～ 1.4

❿ Low Freq

Low Ratioの周波数を調節します。
範囲：22.0 Hz ～ 18.0 kHz

⓫ OPEN/CLOSE

残響を調節する画面を開いたり、閉じたりします。

⓬ グラフ

残響の特性を表示するグラフです。縦軸が信号レベル、横軸が時間、斜め軸が周波数を表わしています。グラフの中のハンドルをマウスでドラッグすると、残響の特性を調節できます。

⓭ 時間軸設定

グラフの時間(横軸)の表示範囲を切り替えます。
表示範囲：500 msec ～ 50 sec

⓮ ズームアウト

グラフの時間軸(横軸)の表示をズームアウトします。

⓯ ズームイン

グラフの時間軸(横軸)の表示をズームインします。

HINT

- 各ソフトウェアの一部のノブやスライダー/フェーダーは、[Ctrl]/[command]キーを押しながらクリックすると、初期値に戻すことができます。
- 各ソフトウェアの一部のノブやスライダー/フェーダーは、[SHIFT]キーを押しながらドラッグすると、値を細かく増減できます。

Guitar Amp Classics

Guitar Amp Classicsとは、ヤマハがモデリング技術を駆使して開発したギターアンプシミュレーターです。サウンドキャラクター別に4種類のアンプタイプがあります。

本体に搭載されているDSPエフェクトのGuitar Amp Classicsと、VSTプラグイン版のGuitar Amp Classicsは、同じ機能です。Cubaseシリーズで使うと、DSPエフェクトのGuitar Amp ClassicsとVSTプラグイン版のGuitar Amp Classicsの設定をプリセットで共有できます。なお、CubaseシリーズでDSPエフェクトのGuitar Amp Classicsを使うときは、Cubaseシリーズの[ダイレクトモニタリング]をオンにする必要があります。また、CubaseシリーズでVSTプラグイン版のGuitar Amp Classicsを使う時は[Distortion]のカテゴリーから選びます(初期設定の場合)。

ただし、サンプリング周波数が176.4 kHzまたは192 kHzの場合、Guitar Amp Classicsは使用できません。

画面の開き方

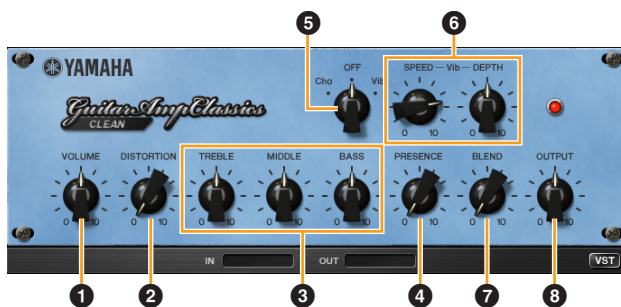
Cubaseシリーズの専用画面から

「入力設定画面」の「エフェクトタイプ」(14ページ)でGuitar Amp Classicsを選んだあと、「エフェクトエディット」をクリックします。

dspMixFx UR242から

「チャンネルエリア」の「エフェクトタイプ」(9ページ)でGuitar Amp Classicsを選んだあと、「エフェクトエディット」をクリックします。

名前と機能

CLEAN

主にクリーントーンで使うアンプタイプです。トランジスタアンプ特有の、ハリのあるキラキラしたサウンドをエミュレートしています。マルチエフェクターなどをかけ録りするときなどに、非常に使いやすいサウンドキャラクターを持っています。また、アンプ独自のコーラスとビブラートが用意されています。

❶ VOLUME

入力レベルを調節します。

❷ DISTORTION

歪み量を調節します。

❸ TREBLE/MIDDLE/BASS

それぞれ、高音域/中音域/低音域のレベルを調節します。

❹ PRESENCE

高音域の倍音を強調します。

❺ Cho/OFF/Vib

エフェクトのオン/オフを切り替えます。[Cho]に合わせるとコーラスが、[Vib]に合わせるとビブラートが、それぞれオンになります。

❻ SPEED/DEPTH

Vib(ビブラート)がオンのときに、音の揺らぎのスピードと深さを調節します。Cho(コーラス)がオンのときとエフェクトがオフのときは機能しません。

❼ BLEND

原音とエフェクト音のバランスを調節します。

❽ OUTPUT

最終的な出力レベルを調節します。

CRUNCH

軽く歪んだクランチサウンドで使うアンプタイプです。ブルースやロック、ソウル、R&Bなどでよく使われるビンテージタイプのチューブアンプのようなサウンドをエミュレートしています。

❶ Normal/Bright

サウンドキャラクターを切り替えます。[Bright]に合わせると、高音域の倍音が強調されます。

❷ GAIN

プリアンプ部への入力レベルを調節します。右に回すほど歪み量が大きくなります。

❸ TREBLE/MIDDLE/BASS

それぞれ、高音域/中音域/低音域のレベルを調節します。

❹ PRESENCE

高音域の倍音を強調します。

❺ OUTPUT

最終的な出力レベルを調節します。

DRIVE

主にディストーションサウンドで使用するアンプタイプです。高出力なハイゲインチューブアンプをエミュレートしています。軽く歪んだクランチサウンドから、ハードロック/ヘビーメタル/ハードコアなどでよく使われる強力なディストーションサウンドまで、幅広い音づくりができます。

❶ AMP TYPE

6種類のタイプから選びます。1と2は、歪み成分がほかのタイプよりも少なめで、ピッキングのタッチが生々しく表現されるタイプ、3と4は倍音に厚みがあり、太くて柔らかいフィーリングを持つタイプ、5と6はタイトなアタック感と荒々しさを持つアグレッシブなタイプとなっています。また、偶数番号のタイプは、奇数番号のタイプに比べてプレゼンスのレンジが広くなっています。

❷ GAIN

プリアンプ部の入力レベルを調節します。右に回すほど歪み量が大きくなります。

❸ MASTER

プリアンプ部の出力レベルを調節します。

❹ TREBLE/MIDDLE/BASS

それぞれ、高音域/中音域/低音域のレベルを調節します。

❺ PRESENCE

高音域の倍音を強調します。

❻ OUTPUT

最終的な出力レベルを調節します。

LEAD

主にリードギターで使用するアンプタイプです。倍音の豊かなハイゲインチューブアンプをエミュレートしています。音抜けのよいリードや、シャープなバッキングに合った音づくりができます。

❶ High/Low

アンプの出力タイプを選びます。[High]を選ぶとより高出力なアンプタイプになり、より歪み成分の多い音づくりができます。

❷ GAIN

プリアンプ部の入力レベルを調節します。右に回すほど歪み量が大きくなります。

❸ MASTER

プリアンプ部の出力レベルを調節します。

❹ TREBLE/MIDDLE/BASS

それぞれ、高音域/中音域/低音域のレベルを調節します。

❺ PRESENCE

高音域の倍音を強調します。

❻ OUTPUT

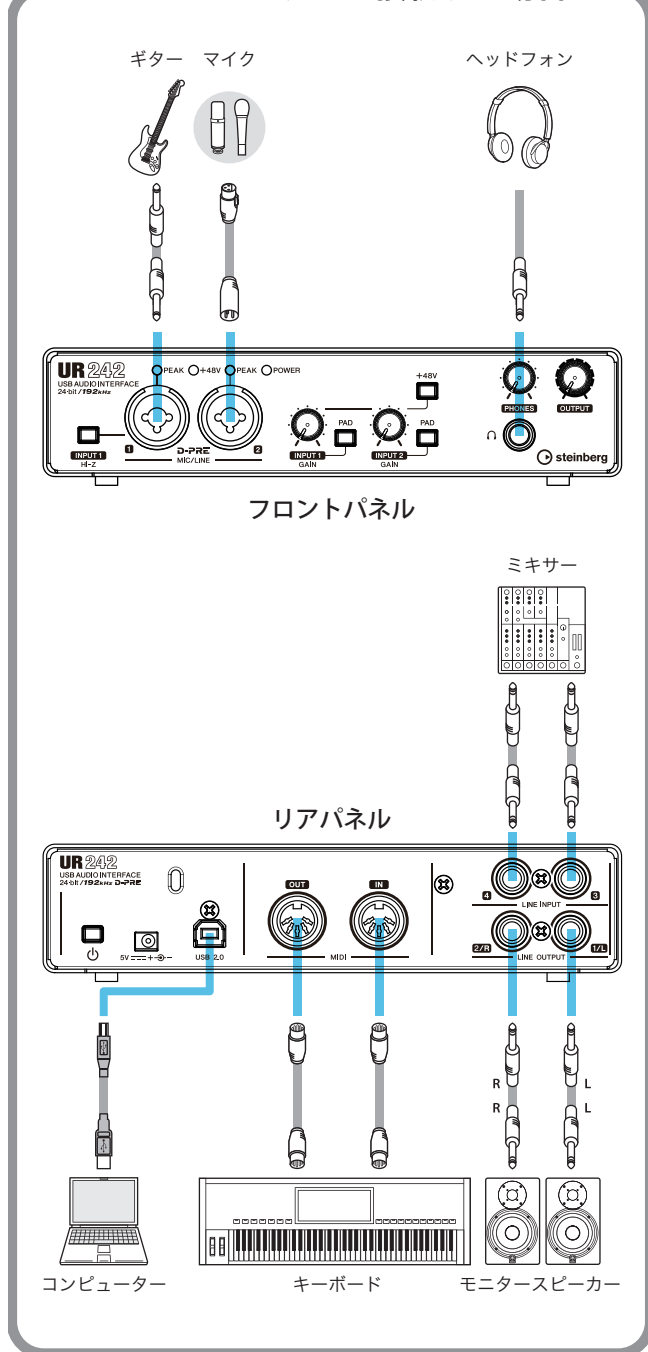
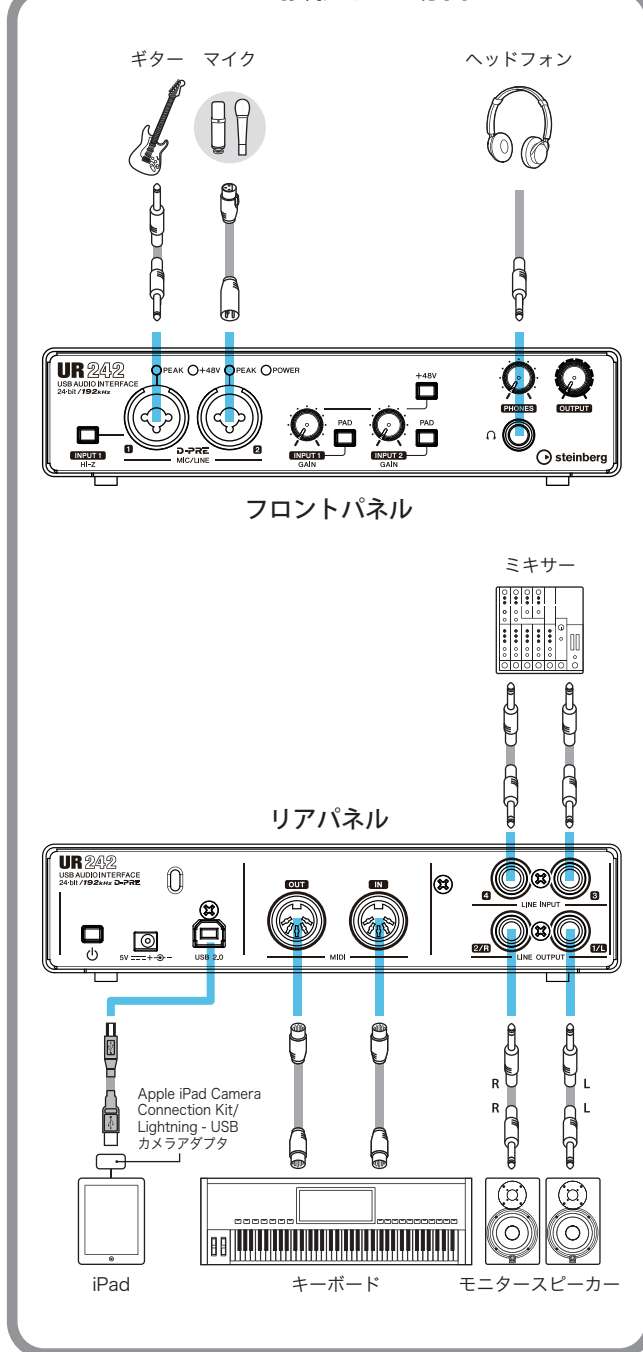
最終的な出力レベルを調節します。

> **HINT**
>
> **GAIN/MASTER/OUTPUTの役割について**
>
> DRIVEとLEADは、GAIN/MASTER/OUTPUTの組み合わせで音づくりをします。GAINはプリアンプ部の入力レベルを調節するので、歪み量が変わります。MASTERはプリアンプ部からパワーアンプ部への出力レベルの調整です。GAINとMASTERは、ギターアンプの音質に影響が大きく、パワーアンプを十分にドライブした音にするには、MASTERも大きめに設定しなければなりません。そこで、エフェクトの最終的な音量を調節するOUTPUTを用意しています。OUTPUTで最終的な音量を調節することで、歪み具合などの音質に影響なくギターの音量を調節できます。

UR242を使ってみる

接続例

⚠注意

ほかの機器と接続されているケーブルを抜き差しするときは、必ず本体およびほかの機器の出力信号レベルを最小にしてください。大音量が出て、聴力障害、または機器が損傷することがあります。

NOTE

- iPadと本体の接続には、Apple社のApple iPad Camera Connection KitまたはLightning - USBカメラアダプタが別途必要となります。
- 対応のiOS機器の情報については、以下のスタインバーグのウェブサイトをご参照ください。
  http://japan.steinberg.net/

DAWソフトウェアのオーディオ設定をする

Cubaseシリーズ

1. **DAWソフトウェアが起動している場合は、終了します。**

2. **本体の[⏻]スイッチがオン(▬)になっていることを確かめます。**

3. **Cubaseシリーズを起動します。**

4. **起動中、[ASIOドライバー選択]画面が表示されたときは、本体が選ばれていることを確認して、[OK]をクリックします。**

以上で、設定は完了です。

Cubaseシリーズ以外のDAWソフトウェア

1. **DAWソフトウェアが起動している場合は、終了します。**

2. **本体の[⏻]スイッチがオン(▬)になっていることを確かめます。**

3. **DAWソフトウェアを起動します。**

4. **オーディオインターフェースを設定する画面を開きます。**

5. **(Windowsのみ)DAWソフトウェアが使用するドライバーを、ASIOに設定します。**

6. **ASIOドライバー (Windows)またはオーディオインターフェース(Mac)を以下のように設定します。**

Windows
ASIOドライバーを[Yamaha Steinberg USB ASIO]に設定します。

Mac
使用するオーディオインターフェースをUR242に設定します。

以上で、設定は完了です。

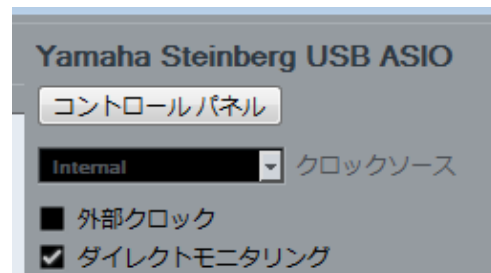
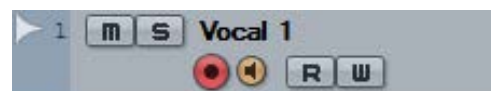
録音/再生する

接続例(22ページ)に従って、マイクを接続します。コンデンサーマイクを使用するときは、[+48V]スイッチをオンにします。

Cubaseシリーズ

1. **Cubaseシリーズを起動します。**
[steinberg hub]画面を表示します。

2. **[レコーディング]の中にあるプロジェクトテンプレート[Steinberg UR242 Vocal-Inst Recording 1-C7]を選んで、[作成]をクリックします。**

3. **以下の方法で、ダイレクトモニタリングをオンにします。**
[デバイス] → [デバイス設定] → [Yamaha Steinberg USB ASIO](Windows)または[Steinberg UR242](Mac) → [ダイレクトモニタリング]にチェックを入れる → [OK]

4. **オーディオトラックの[録音可能]と[モニタリング]がオン(点灯)になっていることを確かめます。**

5. **マイクで音声を入力しながら、本体の[INPUT GAIN]ノブでマイクの入力信号レベルを調節します。**

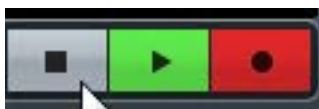
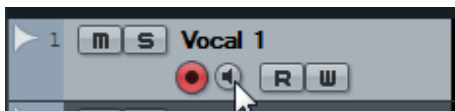
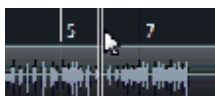
> **HINT**
> **最適な録音レベルにするために**
> 一番大きな音のときに、[PEAK]インジケーターが一瞬点灯するレベルになるように調整します。

6. **マイクで音声を入力しながら、本体の[PHONES]ノブでヘッドフォンの出力信号レベルを調節します。**

7. **入力設定画面で、Channel StripとREV-Xの設定をします。**

Channel Stripのかけかたによって、Channel Strip挿入位置を選びます。初期設定は「下」(かけ録り)です。Channel Strip挿入位置の詳細は、「Cubaseシリーズの専用画面」の「エフェクト挿入位置」(15ページ)をご参照ください。

8. **[●]をクリックして、録音を開始します。**

9. **録音が終わったら、[■]をクリックして停止します。**

10. **オーディオトラックの[モニタリング]をオフ(消灯)にします。**

11. **ルーラーをクリックして、再生を開始したい位置にプロジェクトカーソルを移動します。**

12. **[▶]をクリックして再生し、録音した音を聴きます。**

モニタースピーカーで音を聴くときは、本体の[OUTPUT]ノブで出力信号レベルを調節します。

以上で、録音/再生の操作は完了です。

Cubaseシリーズの詳しい使い方は、Cubaseシリーズのメニュー [ヘルプ]から開くPDF形式のマニュアルをお読みください。

Cubaseシリーズ以外のDAWソフトウェア

1. **DAWソフトウェアを起動します。**

2. **dspMixFx UR242を開きます。**

dspMixFx UR242の開き方は、「dspMixFx UR242」の「画面の開き方」(8ページ)をご参照ください。

3. **マイクで音声を入力しながら、本体の[INPUT GAIN]ノブでマイクの入力信号レベルを調節します。**

> **HINT**
>
> **最適な録音レベルにするために**
>
> 一番大きな音のときに、[PEAK]インジケーターが一瞬点灯するレベルになるように調整します。

4. **マイクで音声を入力しながら、本体の[PHONES]ノブでヘッドフォンの出力信号レベルを調節します。**

5. **dspMixFx UR242で、Channel StripとREV-Xの設定をします。**

6. **DAWソフトウェアで、録音を開始します。**

7. **録音が終わったら、停止します。**

8. **録音した部分を再生して、音を確かめます。**

DAWソフトウェアの詳しい使い方は、DAWソフトウェアの取扱説明書をお読みください。

困ったときは

電源が入らない	**電源アダプターを接続していますか？** バスパワーでは動作しません。セットアップガイドを参照して、電源を入れてください。
音が鳴らない	**TOOLS for UR242はインストールしましたか？** セットアップガイドを参照して、TOOLS for UR242をインストールしてください。
	適切なUSB ケーブルをお使いですか? USBケーブルが劣化している場合は、新しいUSBケーブルに交換してください。また3メートル以下のUSBケーブルをお使いください。
	本体のレベルは上がっていますか？ [OUTPUT]ノブや[PHONES]ノブのレベルを確認してください。
	本体が、マイクやモニタースピーカーと正しく接続されていますか？ 「接続例」(22ページ)を参照して、マイクやモニタースピーカーが正しく接続されていることを確認してください。
	DAWソフトウェアのオーディオ設定は完了しましたか？ 「DAWソフトウェアのオーディオ設定」(23ページ)を参照して、DAWソフトウェアのオーディオ設定が完了していることを確認してください。完了していなければ、もう一度設定してください。
	Cubaseシリーズの[ASIOドライバー]の設定は適切ですか？ Cubaseシリーズのメニューから、[デバイス] → [デバイス設定...] → [VSTオーディオシステム]を開き、右側の[ASIOドライバー]に[Yamaha Steinberg USB ASIO](Windows)または [Steinberg UR242] (Mac)が選ばれていることを確認してください。
	DAWソフトウェアの起動前に、コンピューターと本体を接続しましたか? 本体とコンピューターを接続したあと、DAWソフトウェアを起動してください。
	使っていないUSB機器が、コンピューターに接続されていませんか？ 使っていないUSB機器を外したあと、音声の出力を確認してください。
	コンピューター上で、多くのアプリケーションを起動していませんか？ 使っていないアプリケーションを終了したあと、音声の出力を確認してください。

<table>
<tr><td rowspan="7">音が正常に鳴らない
(ノイズ、音切れ、歪み、ハウリング)</td><td>バッファーサイズが小さすぎませんか?
「Yamaha Steinberg USB Driver」(6ページ) を参照して、バッファーサイズを確認してください。</td></tr>
<tr><td>お使いのコンピューターは、動作環境を満たしていますか?
動作環境を確認してください。最新の情報は、以下のSteinbergウェブサイトをご参照ください。
http://japan.steinberg.net/</td></tr>
<tr><td>DAWソフトウェア上で、たくさんのオーディオトラックを再生していませんか?
お使いのコンピューターの性能によっては、たくさんのオーディオトラックを再生すると音が途切れたりすることがあります。オーディオトラックを少なくして、音を確認してください。</td></tr>
<tr><td>有線/無線LANなどのネットワークアダプターは動作していませんか?
ネットワークアダプターの動作を停止してみてください。ネットワークアダプターがノイズの原因になることがあります。</td></tr>
<tr><td>ループバックの設定は適切ですか?
ループバック機能を使わない場合、「dspMixFx UR242セットアップ画面」(11ページ)または「CubaseのHardware Setup画面」(15ページ)を参照して、Enable Loopbackの設定をオフにしてください。</td></tr>
<tr><td>モニタースピーカーの電源がオフになっていませんか?
モニタースピーカーの電源がオンになっていることを確認してください。</td></tr>
<tr><td>Padスイッチの設定は適切ですか?
[MIC/LINE 1/2]端子に高感度マイクまたはライン機器を接続している場合、[Pad]スイッチをオンにしてください。</td></tr>
</table>

最新のサポート情報は、以下のSteinbergウェブサイトをご参照ください。

http://japan.steinberg.net/

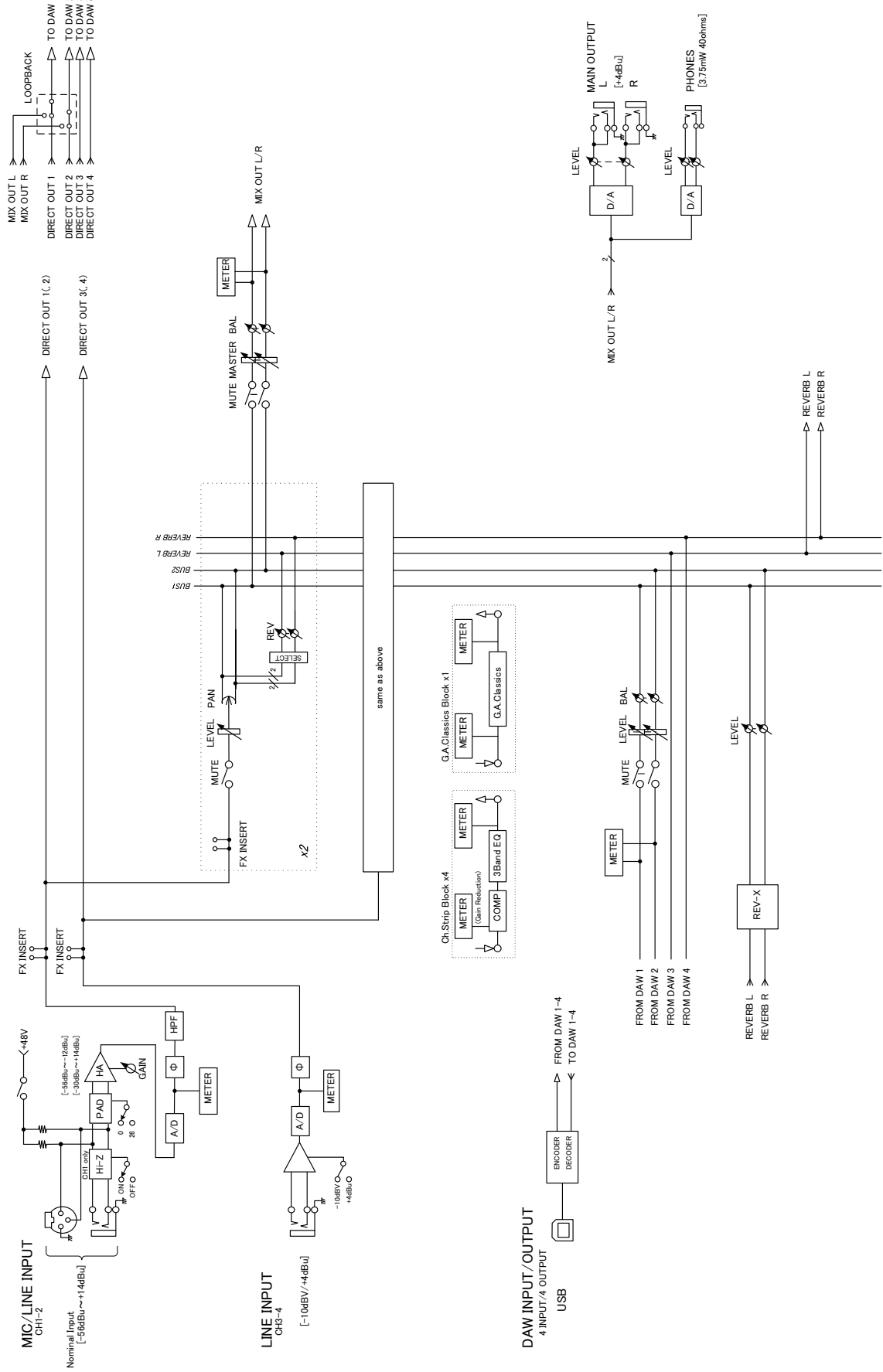
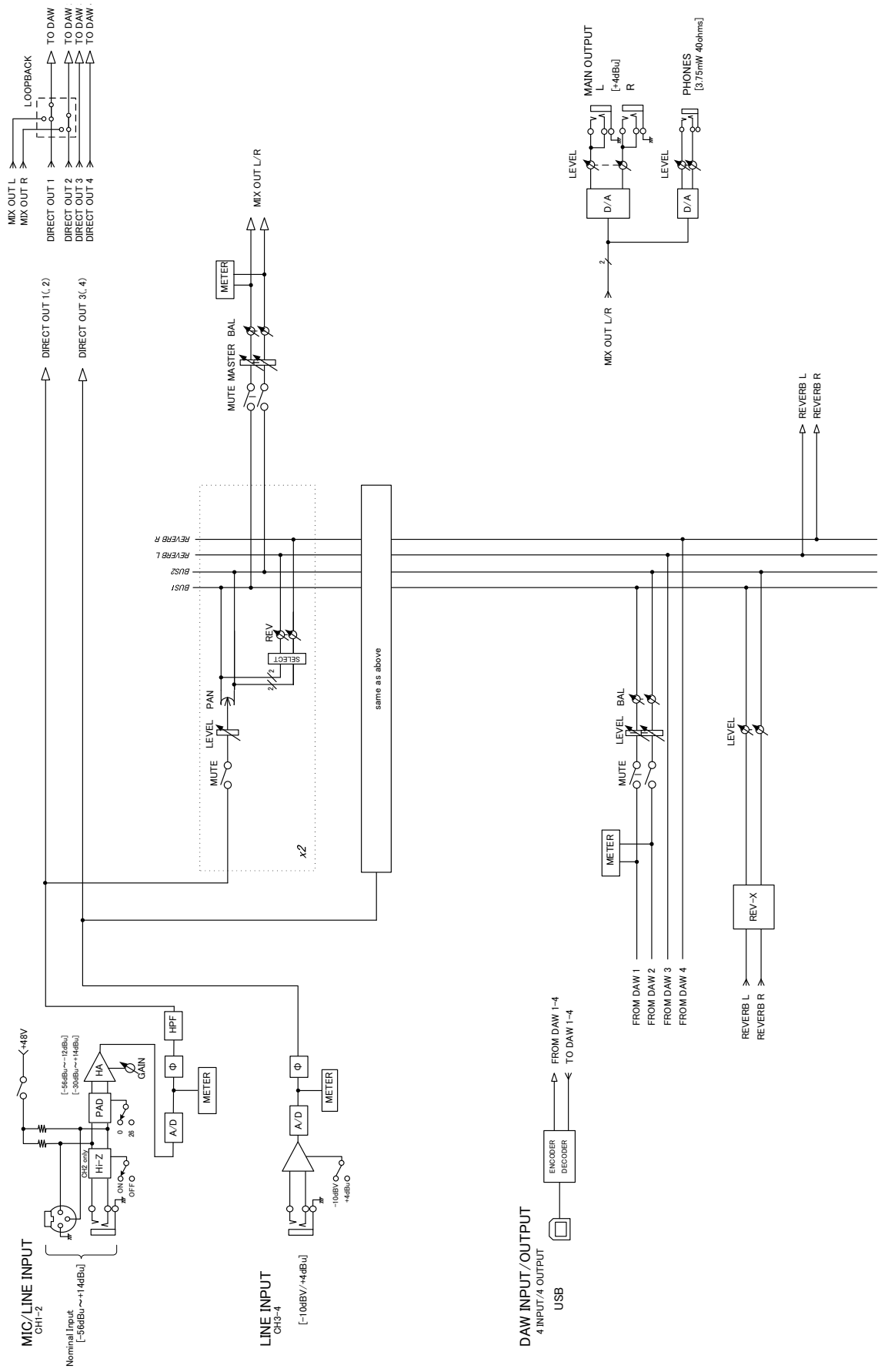
資料

エフェクトの使用制限

同時に使えるChannel Strip数、Guitar Amp Classics数の上限は以下のいずれかになります。たとえば、Channel Stripをモノラルチャンネルに2つ、Guitar Amp Classicsをモノラルチャンネルに1つまで同時に使えます。

Channel Strip		Guitar Amp Classics	
モノラル	ステレオ	モノラル	ステレオ
4	0	0	-
2	1	0	-
2	0	1	-
0	2	0	-
0	1	1	-

ブロックダイアグラム

UR242- 44.1/48/88.2/96 kHz

UR242- 176.4/192 kHz

UR242- 44.1/48/88.2/96 kHz-iPad

UR242- 176.4/192 kHz-iPad